

共にしあわせ産みだす党 日本共産党 市議団ニュース

第2164号 2026年01月25日

日本共産党 根室市議団
根室市宝林町4-203 TEL0153-23-6023



ベネズエラへのアメリカの暴挙に強く抗議 「国連憲章と国際法まもれ」と各団体が街頭から訴え

「ねむろ「九条の会」共同代表の神志氏は過去アメリカは国際社会でしっかりとした地歩を築いてきたがトランプ政権はそれらをひっくり返し、ルーナなき国際社会をロシアのプーチン大統領とともに行っていると抗議。また「小6の公民で国連の役割や国連憲章、日本国憲法を学ぶ。国際的な紛争に武力を使わない、恒久平和を求める。国連憲章は国際秩序の平和のルールブックとして勉強する。しかし今の国際社会は子ども達に嘘をついていると言われて仕方がない」と述べ、「子ども達の未来に希望を示すため、私たちは根室から小さな声でも日本中に向けて、世界に向けて声を大きくしていこう」と呼びかけました。

抗議活動にねむろ「九条の会」と総がかり行動根室実行委員会に参加する7団体と個人あわせて16名が参加しました。

アメリカがベネズエラを攻撃し大統領を拉致した問題に対して1月17日、ねむろ「九条の会」と戦争させない・9条壊すな総がかり行動根室実行委員会は街頭から抗議活動を行いました。

工事開始は今年6月に延期か 根室西浜太陽光発電事業 市議会に説明

1月9日、市総合運動公園の傍にメガソーラーの建設を計画している四ツ谷エナジー合同会社が根室市議会議員に対して、事業内容について説明を行いました。本事業計画に対して、これまで市内で3回住民説明会を行っており、参加者から強い不信や反対意見があがっていました。

今回、市議会に行われた説明は従前の住民説明会で行われた内容とほぼ同じです。参加した各議員は個人的な立場で質疑、意見交換を行いました。

内容の一部を紹介すると、
○事業は市民との合意形成がなければ着工することが出来ない。着工開始は6月を目標に合意形成を図っていきたい。

※11月の住民説明会では「3月以降」と表記していた。
○11月の3回目の住民説明会で出された意見等に対する回答は現在作成中。配布する。説明会の開催方式は未定だが、住民への説明会は再度行う。
○国の法制度改正で2027年度以降、FIT/FIP制度の支援が無くなるが、この事業は民間企業間の契約で電気を売るコーポレートPPAで影響ない。環境影響評価の対象変更は、国の動向を中止する。

市内の他メガソーラー事業も含め引き続き、その動向を注視・検討していきたいと思います。

1月15日「令和7年度根室市議会議員研修会」が開催されました。北海道大学公共政策大学院山崎幹根教授は「議会サポーター制度の導入など～議会改革の現状とこれから～」について、また北海道大学広報・社会連携本部中村健吾特任准教授から「教育は地域振興に資するのか～高校の魅力化と地域づくり～」をテーマに講演いただきました。それぞれ重要な課題であり、今後の市議会でも論議を深め、実践していかなければならないと感じました。



写真：根室市議会の公式Facebookより引用

続けて根労連や日本共産党市議団、新婦人、退職教の各団体が抗議のスピーチを行いました。
また参加者は「旧ソ連軍の侵攻により島を奪われて以来、80年間苦しめられてきた根室地域として、大国による暴挙、武力による支配がまかり通る世界に逆行させてはならない、『島を返せ』の悲痛な叫びの根拠すら失いかねない」として、アメリカは歴史を逆行する不法な行為をやめ、拘束したマドゥローロ大統領夫妻を直ちに解放し、大国として国際秩序を守る重大な責任を果たすこと。日本政府も憲法9条の理念に基づく平和外交を貫き、関係各国への働きかけを強化すること等を求めるアピール文を確認しました。
今後引き続き、こうした活動を各地で継続し国民世論を広げていきたいと思います。

2025年度 トラウトサーモン生存率30.8%に 根室市の海面養殖実証試験 試行錯誤が続く

1月8日、根室市議会総務経済常任委員会が委員協議会を開催し、次期「根室市耐震改修促進計画(第4次)」の説明と花咲港で実証実験が行われているトラウトサーモン海面養殖について昨年度の実績などについて説明をうけました。
住宅耐震改修費用助成制度の拡充検討
計画期間が2026年度、35年度まで10年間に延長される次期「市耐震改修促進計画」は、日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震の被害想定や国道による住宅等の耐震化促進の方針、政策や目標などが反映されました。また根室市内の住宅耐震化率89.8%(2025年推計)を30年に95%、35年に「おおむね解消」とする目標を設定。その方策として現在市が行っている住宅の耐震改修費用の助成制度を拡充を検討する、としています。計画案は2月6日までパブリックコメントとして市ホームページ等に掲載されています。
夏場の高水温で養殖トラウトの生存率が低下
2023年度から花咲港内でトラウトサーモンの海面養殖試験を行って3年目の昨年は約500gの稚魚を秋までの半年間で5倍に成長させる計画でした。しかし8、9月の高水温で1か月給餌を止めたところ、生存率が約3割に低下し、成長も平均1.2kg、最大2kgに留まったそうです。
市水産研究所の説明によると「事業化のためには高水温対策が課題だが、現時点で有効策はない。次年度は引き続き同規模の試験方法を継続して、高水温による影響の調査を行う」とのことでした。



写真：根室市議会の公式Facebookより引用